

全般季節予報支援資料 1か月予報 2014年2月14日

予報期間：2月15日～3月14日 気象庁地球環境・海洋部

全般季節予報

(1) 特に注意を要する事項

なし。

(2) 出現の可能性が最も大きい天候

北日本日本海側では、平年に比べ曇りや雪の日が少ないでしょう。東・西日本日本海側では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多い見込みです。北・東日本太平洋側では、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。沖縄・奄美では平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

(3) 確率

1か月	気温(%)	1か月	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
	低並高		少並多	少並多	少並多
北日本	30:30:40	北日本日本海側 北日本太平洋側	40:40:20 20:30:50	20:40:40 50:30:20	40:40:20
東日本	30:30:40	東日本日本海側 東日本太平洋側	40:30:30 20:30:50	30:30:40 40:40:20	40:40:20
西日本	30:40:30	西日本日本海側 西日本太平洋側	30:40:30 20:40:40	30:40:30 30:40:30	40:40:20
沖縄・奄美	40:40:20	沖縄・奄美	40:40:20	20:40:40	

気温	1週目(%)	2週目(%)	3～4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	30:50:20	20:30:50	40:30:30
東日本	20:50:30	20:30:50	40:30:30
西日本	20:50:30	20:40:40	40:30:30
沖縄・奄美	40:40:20	40:40:20	40:30:30

予報資料の解釈

● 1か月 (2/15~3/14)

- 500hPa 高度は、日本付近は全般に正偏差で日本の東海上で正偏差が明瞭。850hPa 気温は、北日本から西日本にかけては正偏差で、日本の東海上で正偏差が明瞭。一方、沖縄・奄美から南では負偏差が予想されている。アリューシャン低気圧は弱く、日本付近は冬型の気圧配置が弱いと予想されている。

● 1週目 (2/15~2/21)

- 500hPa 高度は、日本の東海上のブロッキング高気圧は崩れ始めるが、日本の東海上に明瞭な正偏差が残る。一方、バイカル湖の西には極渦が見られる。日本付近は西谷傾向が見られる。
- 海面気圧は、典型的な冬型の気圧配置の形は見られず、等圧線の走行は北北東から南南西となっており、全国的に東寄りの偏差の風が予想されている。北日本から西日本にかけては気圧の谷の影響を受けやすい。
- 850hPa 気温は、北日本から西日本にかけては正偏差が予想されている。

▶ 想定される天候

- 北・東日本日本海側では、気圧の谷の影響で、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多い。
- 西日本日本海側では、気圧の谷の影響で、平年に比べ曇りや雪または雨の日が多い。
- 北・東日本太平洋側では、気圧の谷の影響で、平年に比べ晴れの日が少ない。
- 西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美では、気圧の谷や湿った気流の影響で、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

● 2週目 (2/22~2/28)

- 500hPa 高度は、日本付近は全般に正偏差が予想され、日本の東海上で明瞭な正偏差が予想されている。日本の東海上の正偏差は、ブロッキング高気圧の名残とバイカル湖付近からの波東伝播の影響があると考えられる。
- インド洋西部で対流活動が不活発、フィリピン付近で対流活動が活発となる影響で、亜熱帯ジェット付近の波列は、アラビア海付近で低気圧性循環偏差、中国付近で高気圧性循環偏差が予想されているが、日本付近は北からの波列などの影響で、低気圧性循環偏差は見られず、亜熱帯ジェット気流の蛇行は不明瞭でジェットは弱い予想となっている。
- 一方、200hPa 東西風は 50N 帯で西風が強まっている。地上では、オホーツク海北部に東西に延びる気圧の谷が予想されている。
- フィリピン付近の下層では、東から移動してきた低気圧性循環偏差が予想され、北からの寒気を引き込んでいる。
- 海面気圧は、本州付近は帯状に高気圧が予想され、日本の東海上で正偏差が明瞭。また、チベット高原の東側を南下する冷涼な高気圧が東シナ海に見られ、この高気圧の南側で低温が予想されている。アリューシャン低気圧はアラスカ沖まで離れ、冬型の気圧配置が弱く、北日本太平洋側では南よりの暖かく湿った空気が流れ込みやすい。
- 850hPa 気温は、北日本を中心に+3℃以上が予想され、かなりの高温となる可能性がある。

● 想定される天候

- 北・東・西日本日本海側では、冬型の気圧配置が弱く平年に比べ曇りや雨または雪の日が少ない。
- 北日本太平洋側では、気圧の谷の影響を受けるため、平年に比べ晴れの日が少ない。
- 東・西日本太平洋側では、高気圧に覆われるため、平年と同様に晴れの日が多い。
- 沖縄・奄美では、高気圧に覆われ、平年に比べ曇りや雨の日が少ない。

● 3～4週目 (3/1～3/14)

- ・ 500hPa 高度は、90E 付近は正偏差、オホーツク海付近に極渦の一部が南下している。中東から中国付近にかけては、正の高偏差確率が予想されている。極渦については不確定なところが多いので採用しない。
- ・ 熱帯の対流活動は、インド洋で対流不活発、海洋大陸から太平洋で対流活発が予想されている。この影響で 200hPa 流線関数偏差ではアラビア海付近で低気圧性循環偏差、中国付近で高気圧性循環偏差が予想され、東シナ海付近で弱い低気圧性循環偏差が予想されている（13日 12Z 初期値）。
- ・ 海面気圧は、冬型の気圧配置が予想されている。
- ・ 850hPa 気温偏差は、日本付近は低温傾向が予想されている。
- ・ 不確定な平年に近づけて考え、平年と同様に北日本を中心とした冬型の気圧配置を採用し気温はやや低温傾向とする。ただし、天候は全国的にはほぼ平年と同様とする。

➤ 想定される天候

- ・ 北日本では冬型の気圧配置の影響で、北日本日本海側は、平年と同様に曇りや雪または雨の日が多く、北日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 東・西日本では、天気は数日の周期で変わり、東・西日本太平洋側では平年と同様に晴れの日が多い。
- ・ 沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多い。

気象庁ホームページ

○季節予報

http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/001_00.html

○「向こう1か月の天候の見通し（1か月予報の解説）」

<http://www.jma.go.jp/jp/longfcst/pdf/pdf1/001.pdf>

も参照してください。

この資料は、気象事業者等が気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。